個人質問

本山　英子　議員

●保育所、幼稚園、こども園について

Q　待機児童についてはどうか。

A　市長　山武市は、一生懸命子育て応援しているつもりですが、市内どこの保育所でもいいということであれば、待機児童はゼロになります。

しかし、希望の園に空きがないということで、14名の方に待機をお願いしています。

Q　ゼロ歳児（産休明け）保育について、ぜひ実施に向け、考えてほしいと思うがいかがか。

A　保健福祉部長　議員には以前から、産休明け（57日）の保育ということで、ご質問をいただいていますが、現在、市は、10カ月からお預かりしています。57日からということになると、いろいろなお子さんの病気に対するリスク、こちらの保育する上での食育の関係など課題があり、完全に安全にお預かりするということを考えて、首の据わる10カ月ということで、現在に至っています。

郡内の公立の保育所では、一番短いところで、6カ月あるいは7カ月からやっているところもあります。市内民間の保育所は、4カ月からお預かりしています。市は、郡内の状況に合わせる形で、なるとうこども園を来年4月にスタートします。乳児を9人を超えて預かる場合には、看護師が必要です。

この取り組みを検討している状況ですが、とりあえず10カ月からを、改めて見直し、検討したいと考えています。

Q　私たち行政は、率先垂範でやっていかなければいけないのではないか。市内の民間保育園が4カ月から預かっていただいているのであれば、せめて市のスタートとしては、4カ月からはじめていただいてもいいのではないか。

A　市長　ゼロ歳児をどこまでお預かりできるか、率先してサービスを展開しろということですが、検討し、できる限りおこたえしていくという形でやっていきます。

Q　病児保育については、さんむ医療センターで、看護師のお子様を対象に行われていると聞いている。成東病院がさんむ医療センターとして再スタートしたが、市民の皆さんの絶大なる信頼を得て、運営されている病院だと思う。ぜひ市民のために、定員を定めながら、病児保育を、医療センターの中で拡大をしていただけないかと思うがいかがか。

A　保健福祉部長　独立行政法人になる時点で、理事長から、病院内で病児保育を実施するという意思表示がされました。病児保育は、どうしても病院付設型が適正であり、県内の病児保育をしている施設も、病院に付設という形になっているので、この辺は、さんむ医療センターと、改めてどの辺までできるか協議します。

Q　病後児保育については、なるとうこども園が開設の折には、スタートしていきたいという話もあったと記憶しているがいかがか。

A　保健福祉部長　これについては看護師がどうしても必要になります。看護師を確保した上で、前向きに取り組んでいきます。

Q　延長保育は、緑海・鳴浜が他の施設と差があるようだが今後の取り組みについてはいかがか。

A　保健福祉部長　しらはたこども園については、できるだけなるとうこども園と同基準で運営を図れたらと考えています。それにより解消できると思うので、効率的な運営をはかっていきます。

Q　利用料の滞納についてはどうか。

A　保健福祉部長　園を通じての督促など、数多く実施しており、結果、収納率は、平成23年度分、現時点で98・22％となっており、昨年は、決算ベースで97・70％で、改善が図られています。ただ、過年度分については、前年度が23・77％で今年度は現時点で19・18％となっています。

Q　臨時、パート職員の人数、勤務状況と待遇についてはいかがか。

A　保健福祉部長　臨時職員については、市の臨時的任用職員に関する規則に基づいて、職員の管理を行っています。一般職員と違うのは給料だけであり、ただ、賃金に関しては、ある程度、略歴加算をしてあります。その他の待遇は、ほぼ同じ状況ですが、勤務日数で社会保険の加入の有無があります。

A　教育部長　幼稚園の雇用条件は、週5日、7時間45分勤務ということで、社会保険、雇用保険は加入しています。

●放射線量、放射性物質の検査について

Q　放射線量検査結果のホームページと広報紙によるものとしているが、これでは時間差がある。結果がまとまり次第、防災無線で発表してはどうか。

A　経済環境部長　現在非常に平常時に近いという状況です。測定結果に著しい放射線量の変化があらわれた場合には、直ちに、結果を防災行政無線で知らせる体制でいます。

市民に貸し出されている放射線量測定器